

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900326		
法人名	医療法人村山内科		
事業所名	グループホーム愛		
所在地	徳島県三好市池田町サラダ1792番地1		
自己評価作成日	平成24年5月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年6月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ターミナル(最後まで見る)ということの基本とし、入居者様やご家族様が安心して看取りができることを支援できます。また医療と連携しているために、慢性疾患の管理や緊急時にも迅速に対応できることや中心街の為、地域の方々や友人なども気軽に来訪できるアットホーム的な施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、事業所の近隣を散歩したり、商店で買い物を楽しんだりしている。地域のお祭りなどの各種行事に参加したり、ボランティアの来訪を受け入れたりして、地域との交流を積極的に行っている。近隣に協力医療機関があることなどから、急変時にも24時間の対応が可能な体制を構築している。重度化した場合や終末期に本人や家族の意向にそった支援を行うことができるよう、心身ともに細やかな支援に努めている。リビングやダイニングなどの共用空間では、学習療法や民謡体操を行っており、笑い声が絶えることのない憩いの空間となっている。事業所の保有する認知症や介護等に関する専門性を活かして地域の講演会等で活動するなどして地域貢献に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも見られるようにホーム内に掲示しており、部会では唱和をして確認している。	地域密着型サービスの意義や役割等を踏まえた理念を掲げ、日ごろから全職員で共有化を図っている。また、年度ごとの目標を掲げ、利用者や家族が家庭的な環境のなかで安心して生活することができるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域との関係を大切にしている。協力できることには積極的にいかない、年間行事の把握や市報などを確認して情報を得て交流している。	事業所には多数のボランティアの来訪がある。利用者や職員は、地域での様々な行事へ参加したり、商店街やスーパーへ出かけたりして地域との交流を図っている。また、理・美容院への外出も支援している。事業所の保有する認知症や介護等に関する専門性を活かし、地域の講演会等で積極的に活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃より地域の人たちにも来訪してもらえるように開放している。また推進会議などの時には認知症について話すことを設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催している議題については、各担当者が事前に話し合い、何をすべきか検討している。参加された方よりの意見や情報などは、現場で活かせるように実践している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。サービスの質の向上に向けた話し合いを行って日ごろのケアに反映している。また、防災や介護に関する議題のほか、商店街改修工事等の議題も取りあげ、利用者や近隣住民が安全に生活していくための話し合いの場にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などの時には相談や意見交換など積極的に実施している。常に協力が得られるように働きかけている。	日ごろから、意欲的に協力関係を築いている。定期的に、利用状況や活動報告を行っている。困難事例の相談なども行っており、課題解決に向けて取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回の拘束委員会では、さまざまな議題を出し合い、意見交換をしている。アンケートなども実施して、スタッフのレベル向上につとめている。	拘束委員会で出された議題について事業所内で話しあっている。理学療法士から利用者の安全で自由な暮らしのための助言を受けたり、定期的にアンケート調査を行ったりして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフもストレスをためないように配慮し、利用者や良い関係づくりができるようにしている。日頃の利用者の変化にすぐ気付けるように観察や精神状態など把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の情報誌を見たり、掲載されている情報を伝えている。制度に関する資料を準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に担当者を決めて職員2人で契約を締結している。十分に説明を行い、理解してもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に声掛け、利用者の日頃の様子や夜間の状態を伝えるようにしている。また家族の意見や要望なども聞いている。	年1回、アンケート調査を行っている。また、意見や要望を表出しやすいよう家族会等の機会を設けている。把握した意見は、業務部会の機会に全職員で話し合いを行い、運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を大切にしている。業務会議や運営会議などを開催し、意見を提案している。	職員が所属する担当部会において、意見や提案を聞くようにしている。各会議においても、職員の負担とならないよう配慮したうえで、些細な意見も汲みとって運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりが目標を掲げ、達成に向け取り組んでいる。個々の年間目標や達成状況を毎日リーダーがチェックしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で勉強会を開催している。また外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の参加により、他事業所内の職員と交流する機会が増えたが、相互関係づくりは十分とはいえない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の行動や会話の中で、本人の今いちばん不安なことに気づき、安心した生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族からの意見や要望などを積極的に聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々のニーズ表を作成し、支援の優先順位を見極め、スタッフと話し合いながらサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事、したいことを日常生活の中で見極め、危険なこと以外は出来る限り一緒に行き、楽しんで頂けるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には居室に誘導し、ご家族との時間をゆっくり穏やかに過ごしていただけるように配慮し、声掛けや援助を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方が来訪された場合、楽しい時間が過ごせるように支援している。再び来訪してもらえるように声掛けしています。	サービス開始前の段階で利用者と面接を行っている。また、書類から利用者のこれまでの生活や人間関係を把握している。手紙や電話による交流を支援している。馴染みの方の来訪時には、自室で気兼ねのない時間を過ごすことができるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がコミュニケーションが図れるように、職員が話題を提供したり広げたりと工夫している。どうしても合わない場合は、席を工夫したり位置関係を工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も電話などで家族などのフォローに努めています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりにゆっくり時間をかけて、今何がしたいか、どんな毎日を送りたいか話を聞かせてもらっている。	利用者と職員によるパートナー制を構築している。職員は、日ごろの利用者との関わりのなかで、体調把握だけでなく、一人ひとりの思いを把握し、希望に応じた支援に結びつけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ファーストフェイズを確認し、入居前の担当者会議で情報収集を行っています。また家族の方が面会時は昔のことを聞かせてもらい参考にしてている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりにパートナーが決まっており、その方の状態を聞いたり、また気づいた点を情報交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	パートナーがニーズ表を作成し、関わりを多く持ったり、ケアなどについても職員間で情報交換をしている。	入居当初の時点において、職員がニーズ表を作成するようにしている。利用者の関係者も加わって話し合いを行っており、本人のより良い暮らしの実現や家族支援も含めた介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のバイタル表の記録や個人の記録の中に、気づきや変化の記入を行い、ケアの質を高めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスでの地域の方との関わりや、ボランティアの来訪時には積極的に参加し、楽しい時間が持てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散髪時には外出して、近隣の理・美容室など地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門医に受診する場合は、情報提供に記入し、他科受診をしている。受診先看護師などにも本人の状態を説明しています。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。かかりつけ医と専門医との連携を図り、緊急時には協力医療機関で対応できるシステムを構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は訪問看護師に依頼することはないが、外来看護師と相談しながら看護体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、情報提供を提出し、入院先スタッフに細かく、現在の状況や認知の状態を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より状態については個々に説明をしている。重度化に伴い、経過やすべき内容についても本人や家族の希望や要望を丁寧に聞き、ケアを実施している。チーム一体となり関わっている。	入居時に、重度化した場合の方針について説明を行っている。病状の変化に応じて、家族や医療関係者と話し合いを重ねている。終末期のあり方についても、“家族の一員として看取る”というチームケア方針のもと、本人や家族の意向にそって支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	予測されることやリスク管理については、多くの事例を通して実践できるようにしている。無理はしないことや、同じ事故が起こらない様に注意をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練以外にも、部会などで話し合い動けるように訓練している。また地域住民の方にも協力を呼び掛けている。	年2回、地域住民の参加を得て避難訓練を実施している。夜間通報の訓練も実施している。各階の廊下には、利用者の歩行状況が一目で確認できる部屋割り表を貼るなどして、確実に避難誘導を行うための取り組みを行っている。また、地域の避難場所としての活用を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重しながら言葉かけについては、職員間で注意ができるように気をつけている。	職員は、利用者一人ひとりの人格や意見を尊重した支援に努めている。人権の擁護や法令遵守に関する話しあい・研修を繰り返し行っている。職員間で対応方法の確認を行ったり、アンケートを実施したりして、誇りやプライバシーの確保に関する具体的な確認に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのようなことでも、本人に尋ねて聞くようにしている。また、そのような場面で困っている場合は、選択肢など提案する場合がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日により、一日の流れが変化する場合もあるため、個々に支援することが難しくなっている。個人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	重度化により、自分でできなくなり、介助をする場合もあるが、できるだけ自立を促すようにしている。衣類などの選択やパジャマの更衣などを行い、日中は私服で過ごしてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態も違い、介助を必要とされる方もある。自分が食べたいと思うものを、自分で食べてもらえるように支援しています。	利用者の希望に応じて、季節の食材を献立に取り入れている。利用者は和やかな雰囲気の中食事をしており、食事が楽しみなものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューや内容については、季節の食材も十分取り入れ、摂取量を毎日チェックし、水分量などが不足している場合は、嗜好品も取り入れ、ゼリーやヨーグルトなど摂取してもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、徹底して実践している。本人で出来る場合はしてもらい、できない場合は介助をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけているため排便、排尿の管理はできている。時間を決めてトイレ誘導する人もいます。個人の排尿パターンを把握するようにしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれに応じた排泄の支援に努めている。入居後、日中の排泄が自立に至った方もおり、本人の自信や身体機能の向上に繋がる支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分量1000ml以上とるようにし、適度な運動や、繊維の多い食事やおやつを提供も考えて提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴の実施をしています。着替えの準備が出来る人は、自分で準備してもらっています。入浴中もコミュニケーションをとっています。拒否される場合は無理はしません。	利用者の希望にそった入浴支援を行っている。入浴を拒む利用者には、足湯や清拭を勧めるなどして、一人ひとりの意向を大切に支援しつつ清潔の保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を有意義にし、夜間は眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おくすり手帳の確認などで薬の内容の把握をし、また自分で飲めない人は嚥下ゼリーなどで飲んでもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや新聞を折ったり、苗木の水やりなどをしてもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院や買い物など、希望に応じておこなっている。地域の行事などにも積極的に参加している。	利用者一人ひとりの希望に応じて、地域の商店街への散歩やドライブ、理・美容院への外出を支援している。また、利用者の心身状況や車椅子の利用等にも配慮している。家族の協力を得たうえで外食を楽しむ利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い帳を作成し、その中から本人の希望される嗜好品や、必要なものなどを購入するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	それぞれのパートナーが電話や手紙などで近況報告しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングやリビングには花を飾ったりして、季節を感じられる工夫をしています。日中、空気の入替えや日差しが強い時は、ブラインドのカーテンなどで調節しています。また夏にはすだれやゴーヤカーテンをしています。	共有空間には、ソファやテーブルを設置しており、利用者の集う明るい雰囲気のところとなっている。利用者同士が洗濯物をたたんだり、会話を楽しんだりして、思い思いに過ごすことのできる空間となっている。職員が自宅で育てた花々を随所に飾るなどして、四季に配慮した空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2、3階と同じ建物なので、交流を図っています。ソファもあり、ゆったりと過ごせるようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、本人の自由にできるようにしている。また、生活しやすい環境でいられるように配慮しています。	居室には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真を持ち込んでもらっている。居心地良く安心して過ごすことができるよう、利用者一人ひとりの生活スタイルに応じた居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を低下させないために、ホーム内を歩いたり、天気の良い日は散歩をしたり、簡単な足の運動や口腔の運動など行っています。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛3階 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットごとに、事務所とリビングに掲示し常時、確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域とのつながりを大切にしている。協力できることに関しては、積極的に協力している。年間の行事の把握や市報などでも情報を得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に対する理解を地域の方に、情報や資料など提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の方が、少しでも参加できるように、案内状や声掛けをして参加してもらうようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、その時には情報や意見交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会開催時には、定期的委員会開催し、具体的な内容について検討できる体制をとっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞紙上で掲載された記事などについても、大きな社会問題として取り上げ、部署内でも意見を聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛3階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の情報誌を見たり、掲載されている情報を伝えている。制度に関する資料を準備し、スタッフ間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、担当者を決めて職員二人対応により、契約を締結している。十分に説明を行い、理解してもらえるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に声掛け、利用者の日頃の様子や、夜間の状態を伝えるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を大切にしている。業務会議や運営会議等を開催し、意見を提案している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが目標を掲げて達成に向け、取り組んでいる。個々の年間目標や達成状況を毎月、リーダーがチェックしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で勉強会を開催している。また外部の研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の参加により、他事業所の職員と交流する機会が増えたが、相互関係作りは十分とはいえない。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛3階 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と日常生活の中で、出来るだけ会話する時間を持ちながら、利用者が安心して生活を送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や連絡事項を伝える時に、利用者に対し、困っていることをお尋ねし、一緒に問題を解決できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者用のニーズ表を作成し、優先的に必要なニーズを話し合いながら、支援を進められるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に過ごす中で、信頼関係が築ける様にコミュニケーションを取り、関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所された際には、利用者やゆっくりと過ごしてもらえよう、家族とのコミュニケーションを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室などは、行きつけの所に行けるように支援している。御友人の方が来所された際にも居室、リビング等にてゆっくりと過ごして頂ける様に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々が孤独しないように声掛けを行い、入居者同士の理解を深めていけるよう、コミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛3階 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も電話などで、家族と関わりを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人にゆっくり時間をかけ、今何がしたいのか、どんな毎日を送りたいか、お話を聞かせていただいている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ファーストフェイズやカンファレンスを行い、また家族の面会時は、昔のことを聞かせてもらい、参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人にパートナーが決まっており、その方の状態を聞いたり、また気付いた点を情報交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	パートナーがニーズ表を作成し、カンファレンスを実施してケアの統一や実践、および評価できるように職員間で情報を交換している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のバイタル表の記入や、個人記録の中に気づきや変化の記入を行い、ケアの質を高めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスでの地域の方との関わりや、ボランティアさん来訪時には、積極的に参加し楽しい時間が持てている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛3階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店街の方や担当警察署の方など来訪時には、話をしてもらい、助言や社会の情報や実情など報告してくれます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望すれば、医師と連携を図り、受診の方向へと導いています。受診時は家族、スタッフなどが付き添い支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	チームでかかわりながら、異常の早期発見につとめ、早急に対応できるようにしている。早めの受診ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族との関わりや情報を行い、入院先で安心して医療が受けられるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前指示書の内容を理解してもらい説明する。最後まで、利用者様とご家族の意見を尊重しながら進めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	早急に対応できるように、日頃より研修などをして実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の緊急連絡網の整備や訓練などの実施をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛3階 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方が気にするようなことや、不快なことや、傷付ける言葉がけには注意し、職員間でも声掛けなどには注意ができるよう気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が決められることについては、決めてもらえるようにしている。希望が聞けるように雰囲気作りには気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務が主体になってしまい、その日をどのように過ごしたいか等、個々に聞けていないこともあるが、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの方が、結髪や衣類などの選択や交換ができ、身だしなみやおしゃれに気を使っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けが出来る人は少なくなっているが、利用者同士、利用者と職員の会話があり、楽しく食事が出来ている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	声掛けを行い、食べれない場合は介助している。お茶を飲めないときは、紅茶・しょうが湯・ゼリー等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、口腔ケアを徹底している。磨き残しがないよう確認、気を付ける。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛3階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、早めのトイレ誘導を行うようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックを行っている。自然排便を促すように、トイレに座ってもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に応じ、いつでも入浴出来るように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動をして頂き、精神的に不安にならないようにしている。夜間は睡眠が得られるようしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬内容や副作用などについて理解している。服用して頂く時は、誤薬のない様に職員同士で確認している。最後まで服用して頂くよう見守りを行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、植木の水やり等や、くもん楽習等をして頂いている。おやつ提供も楽しみのひとつである。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院・買い物等、希望に応じて対応している。時々、家族さんと共に外食される方もある。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛3階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い帳の作成をする。本人様の希望する物品に応じて、一緒に買い物に行く。自分で支払いをして頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人・知人・家族さんに好きな時に手紙を書いて頂いている。封筒・便箋・切手など本人様が所持している。書かれた手紙は、職員が出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングやリビングなど花を生けたりして、季節を感じられる工夫をしている。日中、空気の入替えをしたり、光がきつい時にはブラインドやカーテンなどで調節している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファがあり、自由に座れて、移動出来るようにしている。居室内でも過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、本人家族が自由に使用できるようにしている。ラジオを聴いたり、テレビを観て過ごす方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすは、移動時にのみ使用することなどを徹底し、体力や筋力の低下などしないように配慮している。歩行練習をされている方もいる。		